A 8　大学生の親役割についての認知と期待 ―― 共同化と同質化の傾向 ――

福岡教育大　高橋久美子

目的　父親の権威の低下が指摘されている。母親の家庭外就労が増加している。これらの現象は、父親と母親の役割が変化し多様化してきていることを示しているが、親役割の分化についての伝統的観念の変化は、夫婦の間に、役割の認知と期待のずれによる葛藤を生じやすくさせているのではないかと予想させる。本研究では、大学生が父親あるいは母親として自分の役割をどのようにとらえ、結婚相手にどのような期待をもっているかを明らかにし、未婚男女の役割意識のずれを検討しながら、親役割についての伝統的観念の変化の傾向を役割の共同化と同質化の面から探ることを、主な課題とした。

方法　調査は1991年12月に、報告者が勤務している大学の3～4年生を対象に行った。教員養成大学の特性を考えると、調査対象者の場合には同世代の青年に比べて、性別分業の規範が親役割の面でも崩れてきているのではないかと予想した。学年は、結婚や親になることを実際的な課題として意識するようになる時期を考慮して選んだ。

結果　仕事や親役割よりも配偶者としての役割を重視し、家庭教育については、とりあげた13項目の全てで父母の共同担当志向が強い。その傾向は女子において著しい。父親の権威についても例えば、子どもを叱るのは主に父親という者は男子でも6割、女子では父母どちらでもよいという者が6割近くいる。親役割の共同化の傾向と関連して、男女ともに、父親には指導力よりも思いやりが、母親には優しさだけでなく責任感が必要であると考えている。父親と母親に必要な資質に比べてしつけ目標や教育程度において、性差の意識は縮まっているが、子と親の立場の違いでは、自主性尊重の時期に遅れがみられる。